



本校ホームページでもお伝えしましたように5月11日～12日にアメリカニューヨークで高校模擬国連国際大会が開催されました。昨年11月の全日本大会を勝ち抜き、日本から派遣された海城を始めとした6校の生徒諸君は全員ウルグアイ大使としてそれぞれの会議に臨みました。UNIDO（国連工業開発機関）議場において本校2年生山田健人君が見事、最優秀賞を獲得しました。彼の活躍ぶりはNHKのBS放送やJapan Timesのオンライン版でも報道されました。今回のグローバル通信に合わせて原稿を寄せてもらいましたのでぜひお目通し下さい。



高校2年3組 山田健人

模擬国連とは、国連で実際に行われている議論に基づき、国連の議事進行形式に則って、国際問題を議論する活動です。参加者は事前に担当国を割り当てられ、議題に関する担当国の状況やスタンスを調べた上で、担当国の意見を元に議論します。模擬国連は、「大使になりきる」などと2日間限りの「体験学習」として見られてしまうことが多く、実際に、国際問題を英語で議論することを通し、異なる意見の人に対して話す能力、人前で話す能力や英語でのコミュニケーション能力、国際情勢の知識などを得ることができることは確かです。しかし、一方で、模擬国連とは、ディベートを複雑化させたような活動でもあり、肯定否定のような対立軸が明確に決まっていない状態から、時に利害関係が一致する国どうしで話し合ったり、時に違った意見を持つ国々と話し合っただけで妥協点を見出したりする中で、最終的に自分の国益を最大限達成しつつ、全ての国が納得してもらえるような結論に至るといった「競技」でもあります。全国の数多くの学校に模擬国連を行う部活が存在し、模擬国連に真剣に関わるものは皆、日々国際情勢への知識を身につけ、英語力の鍛錬に努め、議論する能力を向上させます。会議の参加にあたっては、膨大な量の文献や国連文書を読み漁り、時に映像資料や議事録等の一次資料を入手し、過去の国連での会合で開かれた議論の内容を把握し、担当国の一般的知識や議題との関わりを調べるとともに、会議での議論の流れを予想し、どのような立場で会議に望むのかを考え、膨大な時間と労力をかけます。私自身も担当国と議題が決まってからの約5ヶ月間、来る日も来る日も準備に明け暮れ、多くの犠牲を払い、他のことをやっている時もいつも潜在的に大会のことを考えていました。

というのも、私は、今回の大会に日本代表として参加しており、全国の高校生の分も努力する道義的責任がありました。昨年11月、国際大会への代表選考を兼ねた全日本高校模擬国連大会が開かれており、全国233チームのうち書類選考を通過した86チームが参加した全国大会で最優秀賞

を受賞したことで、創部以来の悲願であったニューヨークへの切符を得ることができました。今回私は、「途上国におけるバイオ燃料の持続可能な生産」をテーマとする国連工業開発機関の総会を模擬した議場に、ウルグアイの担当者として参加しました。会議では、冒頭から先進国以外の国々の盟主的存在となることに成功し、様々な国の意見、利害を調整しつつ、文書のまとめ役となりました。そして最終的に、参加した議場にて最も優秀な参加者に贈られる最優秀賞を受賞しました。日本代表の高校が最優秀賞を受賞するのは 2014 年以來 2 度目、国際大会初出場での最優秀賞受賞は初であるようであります。

大会を前に訪問した日本貿易振興機構(ジェトロ)ニューヨーク事務所で働いている方が、「日本人のものづくりにかける思いは世界一で、そうした思いを現地の人に伝えることさえできれば、日本は必ずまた強くなれるはずだ」とおっしゃっていました。今大会を通し、私は、これは国際的な議論の場においても本当だと感じました。すなわち、日本人の議論のスタイルは、英語で議論したり、スピーチをしたりする力に磨きをかけることにより、十分通用するということを実感しました。

模擬国連会議において、会議前の準備と、それによって得られた知識の面で、日本は世界一の水準です。他国の参加者の話がいくら上手くても、明確な根拠を元に話していないのであれば、日本で蓄えてきた知識を武器にして十分反論することができます。あるいは、今大会、多国間でグループを形成して話す場面において、ウルグアイが中心となったグループでは、全員に意見を求め、要所で話をまとめ、全員が議論を理解し、納得していることを確かめたことで、全員の意向を反映した、包括的かつ明確な結論に至ることができました。一方、他の国が集まったグループでは、口数の多い一握りの国が激しく言い合うような展開となっていたようであり、その結論も結局何を伝えたいのかわからないような状態となっていました。また、ウルグアイは成果文書を提出する時間を守った一方で、他のグループは当初の期限を過ぎても作業を続けており、これがのちの交渉力の差となりました。徹底的に準備し、全員の同意を取り付け、時間を守る、ということは日本では当たり前のことです。こうした基本的なことの価値をあまり実感したことはありませんでした。しかし国際大会では、こうしたことが他国の参加者との歴然とした差となりました。

もちろん、日本人らしさを活かすためには、自分の意見を伝え、交渉するための英語力が必要不可欠です。日本で身につけるような英語力と、英語で議論するための英語力は全く違う次元の力です。すなわち、国際大会では、完璧な文法で話したり難しい言葉を使ったりすることはありませんが、必要自分の意見を簡潔かつ印象的に伝える能力が必要です。この点で見ると、私はほぼゼロからのスタートを強いられました。しかし、日々有名な政治家の英語のスピーチを聞き、発音するような練習や、即興でスピーチを行うような練習を続けるとともに、事前に準備していなければ言えないような統計資料や決め台詞を数多く覚えておくことにより、拙い英語ではありましたが、臨機応変に数多くのスピーチをこなすことができました。

結果として、日本人としてのスタイルを持ち込み、それが案外他の国の参加者にも受け入れられたという手応えを得ました。皆で話し合う力、論理的思考力、プレッシャーに負けない力など、海城での生活の中でも、模擬国連と関係がないように思われた活動が活かされたと感じました。模擬国連は、自分の今までの人生の全てをぶつける舞台だったのです。

末筆ながら、お世話になった多くの方々に心より感謝申し上げます。

引率者より

毎年11月に行われる高校模擬国連全日本大会には書類審査を通過して本校はここ数年連続して参加する機会を得てきました。もちろんそれだけでも素晴らしいことなのですが、ここから更にニューヨークへの切符を掴むとなるとハードルは一段と高くなります。全日本大会では公式スピーチは英語ですが、非公式討議は日本語が使われます。ニューヨークでは全てが英語になりますので、自分から積極的に絡んでいかないと議論に参加することができません。例えとして社会Ⅰ～Ⅲでやるディベートを全て英語でやることを想像していただければその難しさを何となくイメージしていただくことができるでしょうか。

今回の大会参加に当たってはホテルでの宿泊に食事はセットされていない関係で、3食ともホテル内や近辺で引率教員と生徒で食事するという申し合わせになっておりました。山田君は持参した保存食や私と一緒に買い物に出かけた際に何食分かサンドイッチ等を買込み部屋で食べることが多かったです。周りからも半分冗談で「引きこもりか」などと言われていましたが、寸暇を惜しんで会議準備に明け暮れていました。部屋で何をしていたかまでは見ておりませんが、議場での堂々としたスピーチや交渉風景を見ていますと、相手がこう出たらこう発言しようといった想定を念入りに繰り返していたのだろうと想像します。本人の文章にも有名なスピーチを何度も繰り返し聞いていたとある通り、母国語でないハンディーを少しでもカバーしようとする地道な努力を称えたいと思います。議場では開発途上国を中心とするグループが形成され、その中心となって議論を引っ張っておりました。下の写真でご覧いただけるように山田君の周りに自然と他国の大使が集まるようになっており、まさにリーダーとして活躍しておりました。

運動部の生徒諸君も日頃から小さな練習試合を重ねて大きな大会を目指していると思います。模擬国連でも練習会が時折企画されます。また時には上級者用に非公式討議も英語を使う会議もあります。そのような機会を自ら探して、回数を重ねながら実力を高めていくという意味ではスポーツに通じるものがあると思っております。



夏のイベント情報 国内で学ぶ

① 西東京三大学連携高校生グローバルスクール

国連が掲げるSDGs（持続可能な開発目標）の一つである“Good Health and Well-being”（すべての人に健康と福祉を）をテーマに、下記の3大学の講義や演習を受講し、参加者のディスカッションからグローバルな課題解決の道筋を探ります。

日程：第1回 7月27日（金） 第2回 8月4日（土）

第1回と2回は同内容ですが会場が異なります。

会場：東京外国語大学（府中市）

東京農工大学（府中市）

電気通信大学（調布市）

大学間の移動は貸切バスを使用。

対象：高校1年生、2年生

費用：無料

人数：各回36名

応募方法：Webエントリー

6月20日（水）まで

応募書類（課題作文 等）提出

6月21日（木）必着

関心のある生徒諸君はグローバル教育部（3号館1階）を訪ねてください。資料をコピーします。

② エンパワーメントプログラム（ISA）

5名程度の日本人生徒に対して1名の海外大学の学生がグループリーダーとして付き、「理想のグローバルスクール」「社会問題を解決するスマホアプリの考察」「世界の深刻な水問題」といったテーマについて英語で議論をします。

日程：7月23日（月）～27日（金）（申し込み締め切り6月13日）

8月13日（月）～17日（金）（申し込み締め切り7月4日）

会場：ISA会議室（品川）

対象：中学3年生～高校3年生

費用：5万円

関心のある生徒諸君はグローバル教育部（3号館1階）を訪ねてください。資料を差し上げます。

またこのプログラムに参加する海外大学生のホストファミリーも募集しているとのことです。

資料を受け取りにグローバル教育部に来室する際は金曜日は担当者不在となりますので、ご注意ください。